



# ShareFast サーバ ユーザマニュアル

Stable Release 1.1

東京大学  
新領域創成科学研究科  
人間環境学専攻  
ロジアナカモンサン ピルン  
[piroon@is.k.u-tokyo.ac.jp](mailto:piroon@is.k.u-tokyo.ac.jp)



## 目次

1. 必要なソフトウェアのインストール.....	4
2. インストールと設定.....	4
2.1 インストール.....	4
2.2 設定.....	7
2.3 Release1.0 から 1.1 へのアップグレード方法.....	7
3. インターフェースと基本操作.....	9
3.1 インターフェース.....	9
3.2 サーバの管理.....	10
3.2.1 Server Management Console ツール.....	10
3.2.2 Organization Administration ツール.....	12
Appendix.....	13
J2SE Development Kit 5.0 のインストール.....	13
Apache Tomcat のインストール.....	16
PostgreSQL のインストール.....	21

## 1. 必要なソフトウェアのインストール

ShareFast はクライアント・サーバ型のウェブアプリケーションであり、本マニュアルはサーバの構築について説明しています。ShareFast には JDK および Tomcat がインストールされている必要があります。（手順の詳細は附録に収録）

Java Development Kit (JDK) (jdk-1\_5\_0\_06-windows-i586-p.exe):

[http://javashopl.m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp?StoreId=22&PartDetailId=jdk-1.5.0\\_06-oth-JPR&TransactionId=noreg](http://javashopl.m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp?StoreId=22&PartDetailId=jdk-1.5.0_06-oth-JPR&TransactionId=noreg))

Apache Tomcat (apache-tomcat-5.5.16.exe)

<http://www.apache.org/dist/tomcat/tomcat-5/v5.5.16/bin/>

## 2. インストールと設定

### 2.1 インストール

1. ShareFast のホームページから sharefast.war をダウンロードしてください。  
(<http://www.sharefast.org/>)
2. Tomcat の管理画面を開き、Tomcat Manager を開いてください。  
(デフォルトでは <http://localhost:8080/>)

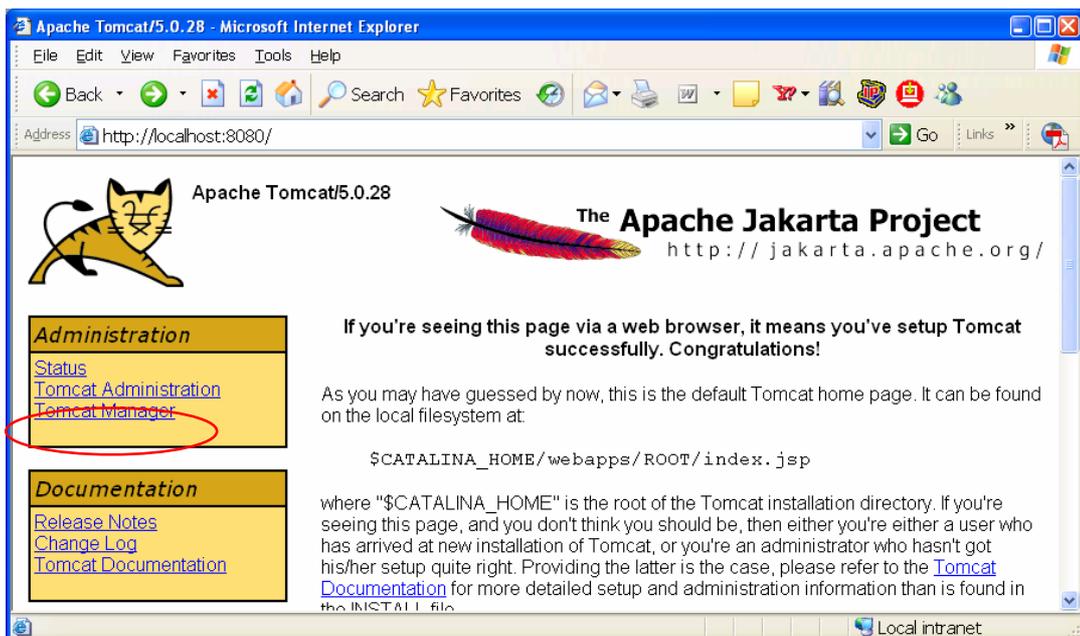


図 1 Apache Tomcat アドミンページ

3. “WAR file to deploy”のセクションで、Browse により sharefast.war を選択し、Deploy (配備) をクリックしてください。  
\*注意\* デスクトップなど、日本語の含まれるディレクトリから配備 (Deploy) すると正常に配備できないことがあります。

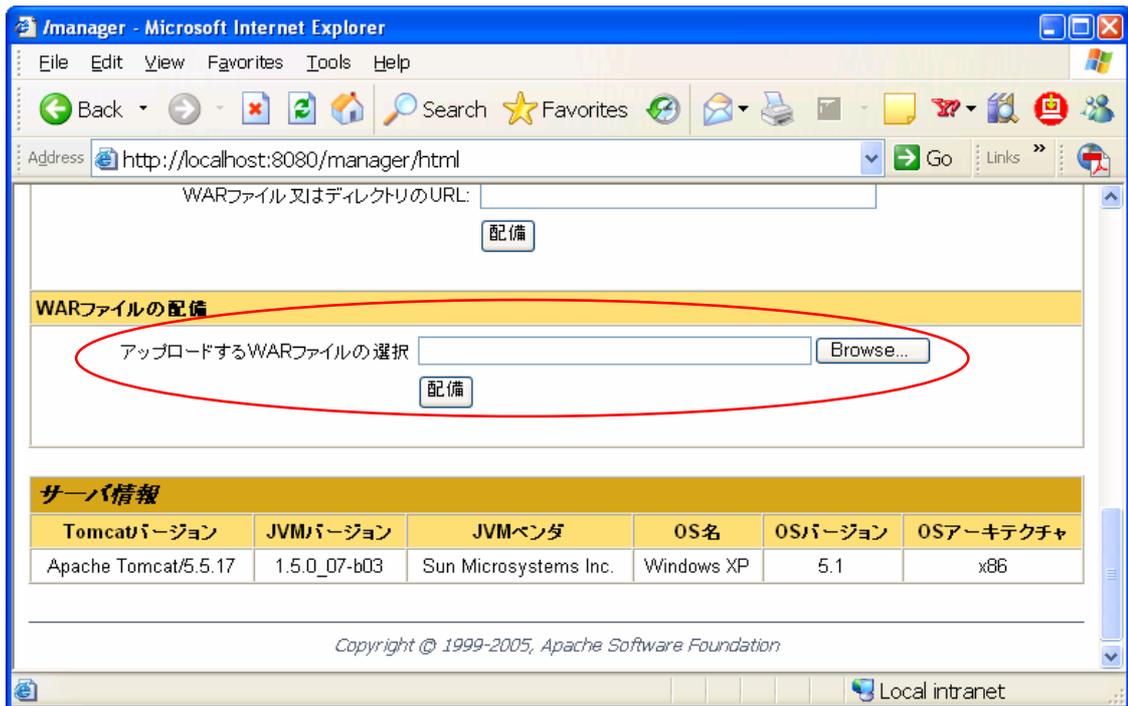


図 2 sharefast.war を配備する

4. 配備すると、sharefast というリンクが見えるようになります。

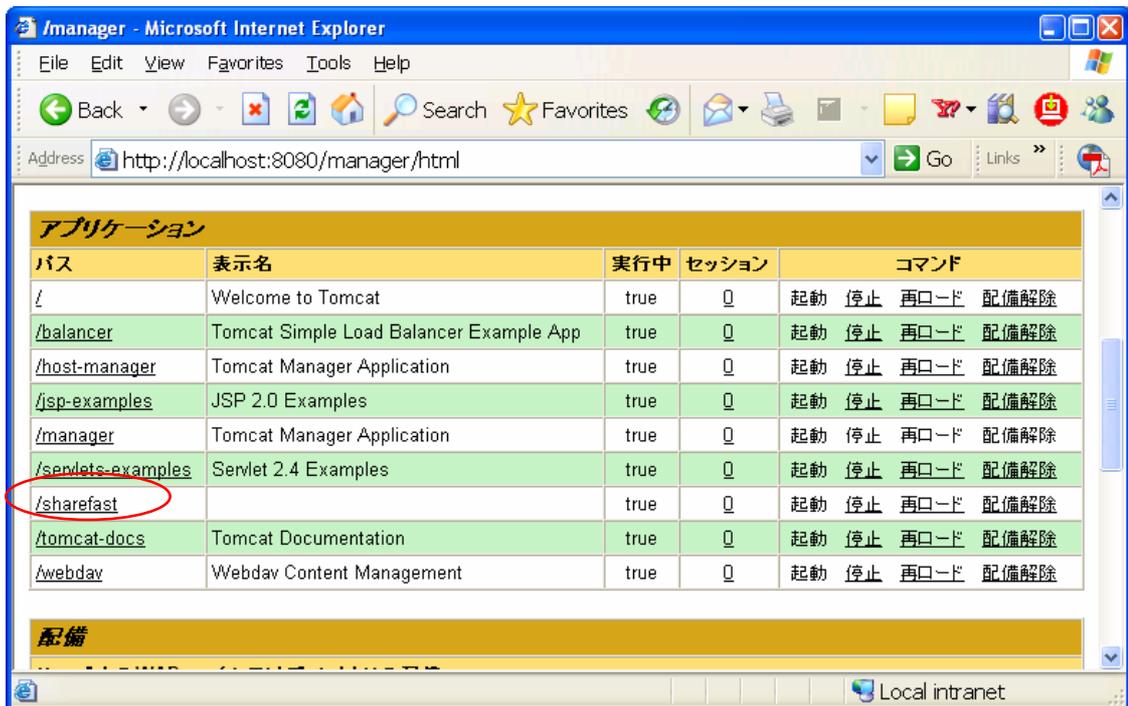


図 3 Sharefast サーバアプリケーション

5. “/sharefast”のリンクをクリックすると,下の画面が見えます。

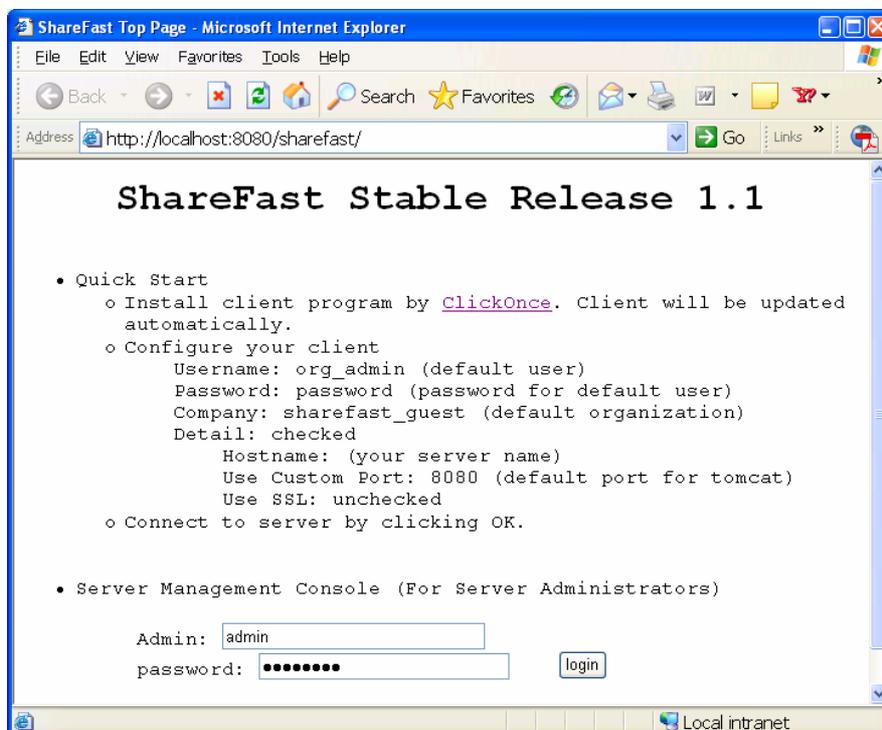


図 4 ShareFast Top Page

## 2.2 設定

インストールした後に、WEB-INF/conf/にある system.xml を編集することを推奨します。

デフォルトの設定のまま使用した場合、ウェブアプリケーションの配備解除時にワークフローや文書ファイルが削除されてしまいます。配備解除時にこれらのファイルが削除されないようにするには、**<RepositoryPath>WEB-INF/repos/</RepositoryPath>**の **WEB-INF/repos/**を他の場所に変更してください。

(例 : C:\\sharefast\\repos\\) このディレクトリにすべてのデータが保存されます。

system.xml の repos を変更する場合には、WEB-INF/repos の中身から新しいディレクトリまでコピーする必要があります。

(オプション) メタデータを RDB に保存する場合

- postgres server を設定してください。  
database server: localhost  
user: postgres  
password: password  
database name: sharefast  
\*これらの値も system.xml 中で指定されています。
- WEB-INF/conf/system.xml の中にある DatabaseType を postgres に変更してください。
- Tomcat を再起動してください。

## 2.3 Release1.0 から 1.1 へのアップグレード方法

デフォルトの設定のまま使用した場合、ウェブアプリケーションのアップグレード時にワークフローや文書ファイルが削除されてしまいます。RepositoryPath を変更して運用している場合には、アップグレード時にもこれらのファイルが削除されません。(RepositoryPath の変更方法は 2.2 設定をご覧ください)

1. Tomcat の管理画面を開き、Tomcat Manager を開いてください。  
(デフォルトでは <http://localhost:8080/>)

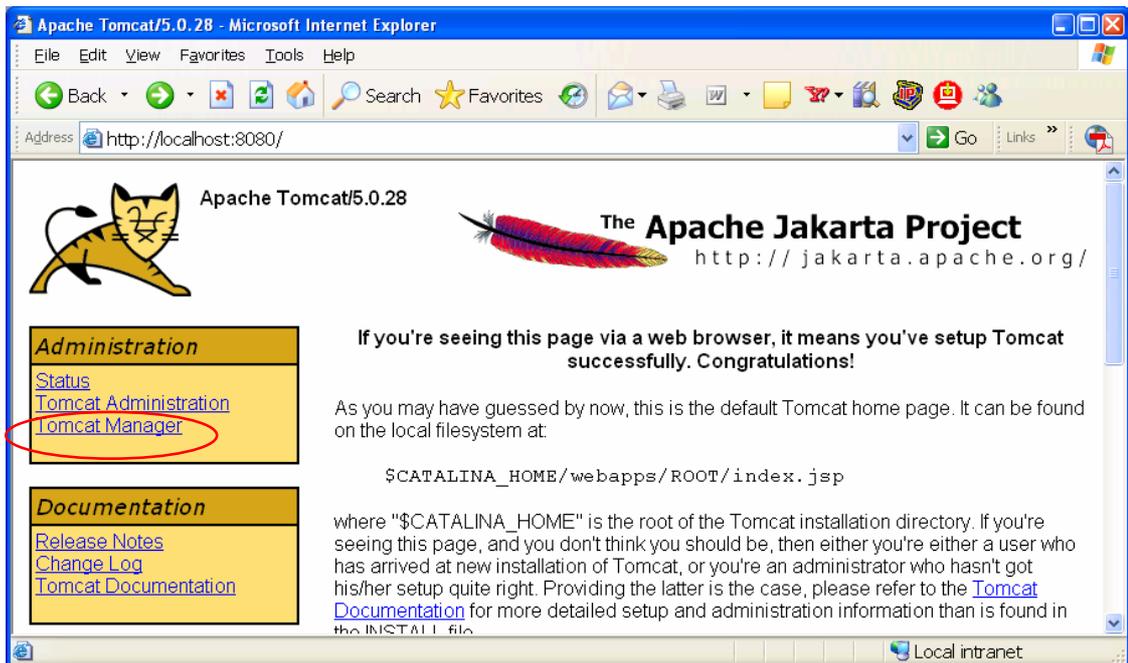


図 5 Apache Tomcat アドミンページ

2. ShareFast の配備解除をクリックしてください。

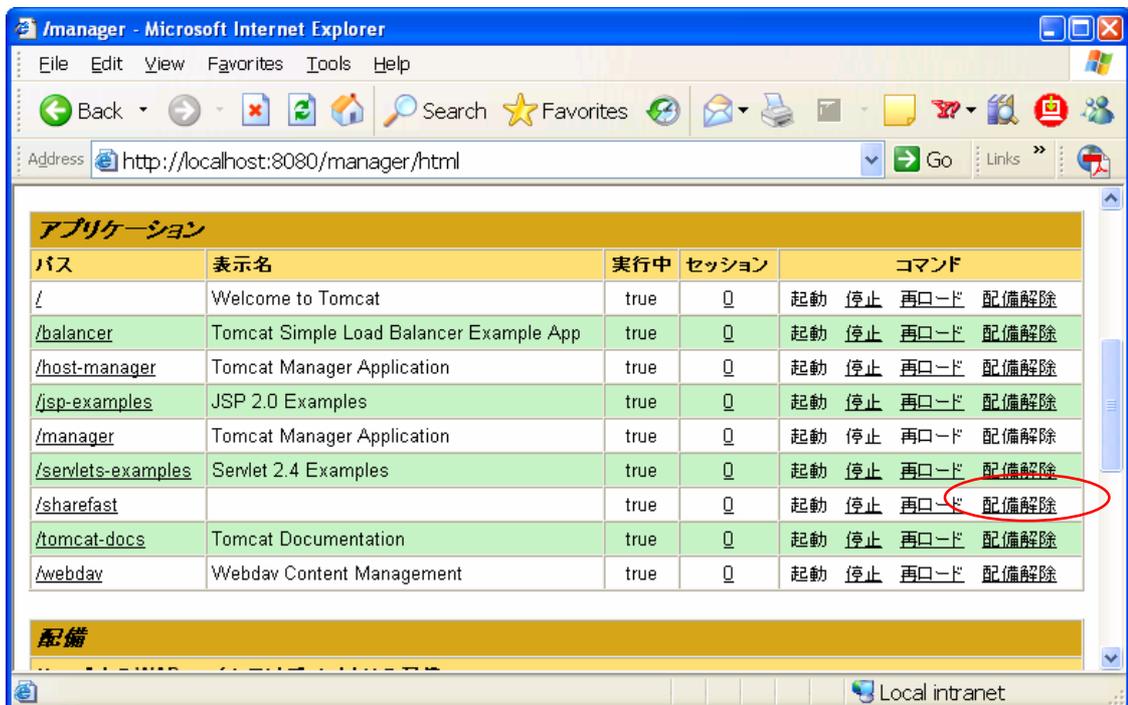
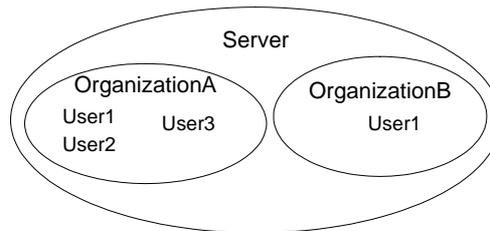


図 6 Sharefast の配備解除

3. Release1.1 のインストールをしてください。

## 3. インターフェースと基本操作

これから ShareFast のインターフェースと基本操作を説明します。ShareFast は Organization という単位でデータの管理を行います。各 Organization に所属するユーザに対して User アカウントを作成してサーバを利用します。



### 3.1 インターフェース

下の画面は ShareFast のインターフェースです。

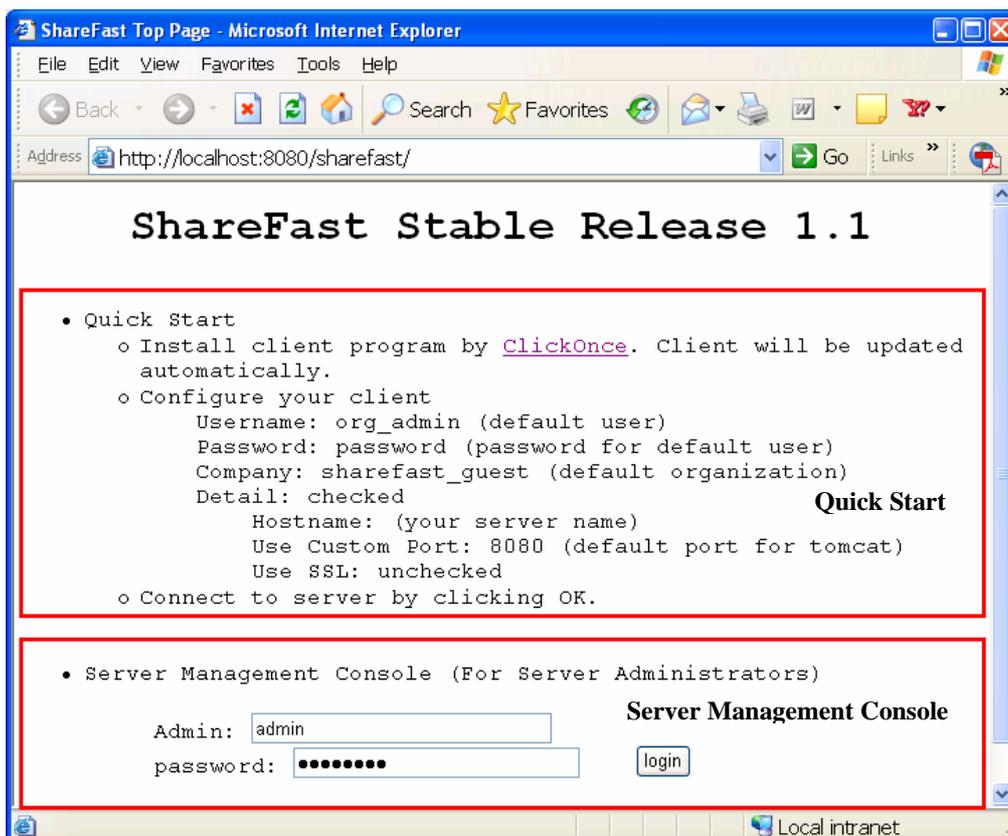


図 7 ShareFast サーバのインターフェース

- 1) Quick Start: ShareFast のクライアントのインストールおよび初期設定の方法について簡単に説明しています。
- 2) Server Management Console: サーバのログ表示、新しい Organization の作成、現在このサーバに存在する Organization のリストと言った、サーバ全体の管理にかかわる機能を提供します。

## 3.2 サーバの管理

本章では ShareFast のサーバが提供する管理機能について説明します。

### 3.2.1 Server Management Console ツール

ウェブブラウザで ShareFast サーバ（初期設定のアドレスは `http://サーバ名:8080/sharefast/`）に接続すると、‘Server Management Console’ という管理メニューがあります。サーバ管理を行うには、この管理画面にログインします。初期の管理アカウント名は `admin`、パスワードは `password` です。変更するには `WEB-INF/conf/`にある `system.xml` を直接編集してください。 `<AdminUsername>` と `<AdminPassword>` を変更して Tomcat を再起動すると新しい管理アカウント名とパスワードが有効になります。



図 8 Server Administrator Tools page

管理画面ではいくつかの管理操作が可能です。‘Show Log’によりサーバ上で発生するシステム上のイベントのログを閲覧できます。‘Create New Organization’では新しい Organization を作成できます。この操作は操作後に Tomcat の再起動が必要です。‘List Organizations’は現在の Organization を確認できます。新しい Organization を作成した場合、この Organization 用に標準で以下の管理アカウントが作成されます。ShareFast クライアントを使ってこのアカウントでログインし、必要なユーザを作成してください。

UserName: org\_admin  
Organization: 新しい Organization 名  
Password: password

新しい organization を作った後は、`<WEB-INF/repos¥(organization name)¥conf¥organization-config.xml>`のメールアドレスを変更する必要があります。このメールアドレスは、mailnode と discussion feature で使われます。

### 3.2.2 Organization Administration ツール

既存の Organization にユーザを追加する場合や、新しく作った Organization について管理を行う場合、このツールが必要になります。ShareFast クライアントに Organization の管理者権限のあるアカウントからログインし、[サーバ]-[ユーザ管理]というメニューを実行すると Organization Administration ツールを利用できます。

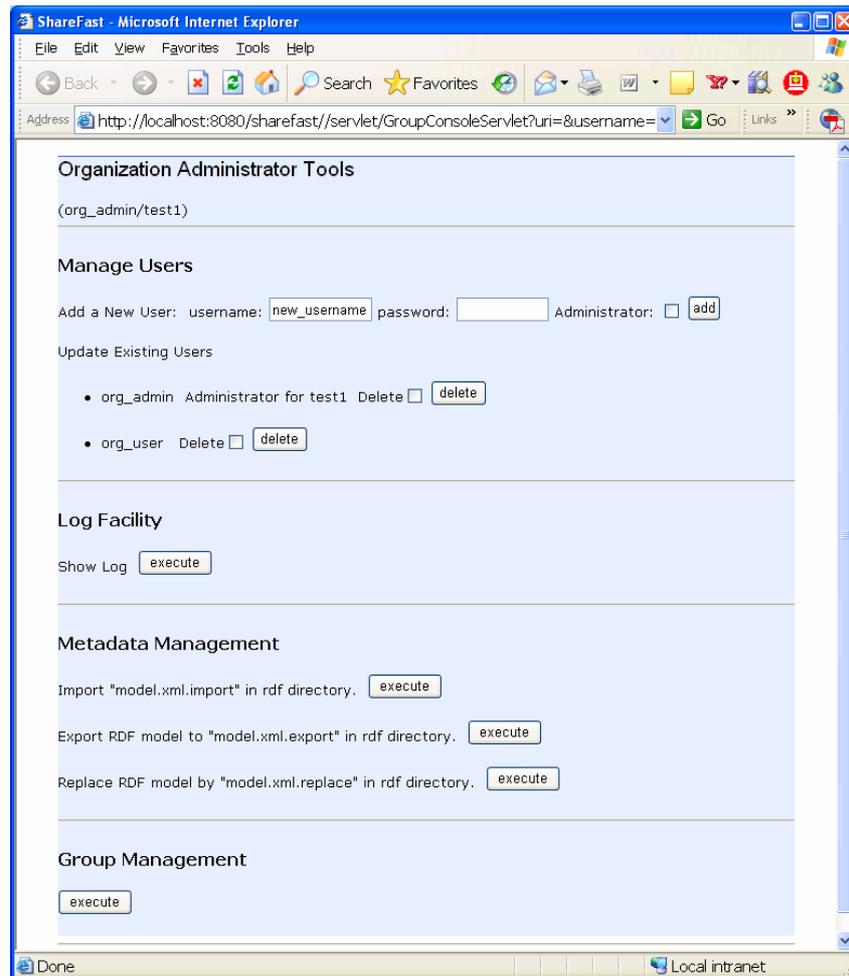


図 9 Organization Administrator ツールの画面

#### 3.2.2.1 Manage Users

ユーザを追加又は更新又は削除する機能です。新しく作成するユーザの名前を username、パスワードを password に入力して add ボタンを入力することで新規ユーザが作成されます。ユーザ名は半角英数字のみと”\_”（アンダーバー）のみで作成し、全角文字や半角スペース、記号は使えません。新しく作成するユーザにこの Organization Administrator ツールへのアクセスを許す場合は、Administrator のチェックボックスをチェックしてください。

ユーザを削除するには、ユーザ一覧の Delete のチェックをチェックして、Delete ボタンをクリックしてください。

### 3.2.2.3 Log Facility

Organization Administrator ツールの Log Facility 部分の execute ボタンをクリックすると、この Organization のユーザの活動に関するログが Organization Administrator ツールの最後尾に表示されます。

### 3.2.2.3 Metadata Management

この Organization の文書ファイルには、RDF 形式のメタデータが付加されています。メタデータは、RDB を利用していない場合、system.xml で指定した <RepositoryPath>の(organization name)/rdf/ ディレクトリに格納されます。このメニューではトラブル時にこのメタデータを管理する機能を提供します。

[Import]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.import という名前のファイル中のメタデータを現在のメタデータに追加します。

[Export]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.export という名前のファイルに現在のメタデータを書き出します。

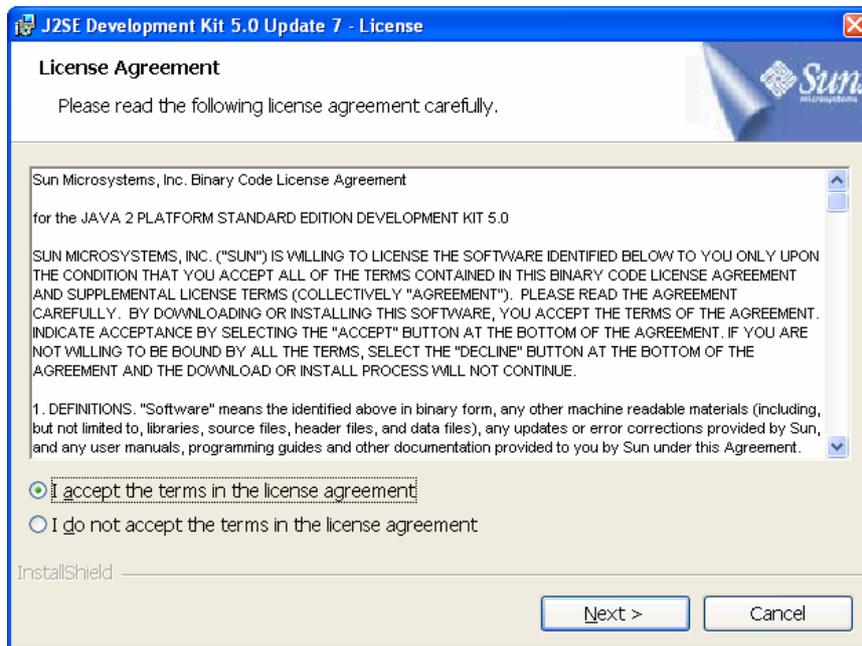
[Replace]: execute ボタンをクリックすると上記 rdf ディレクトリに置いた model.xml.replace という名前のファイルで現在のメタデータを置き換えます。

## Appendix

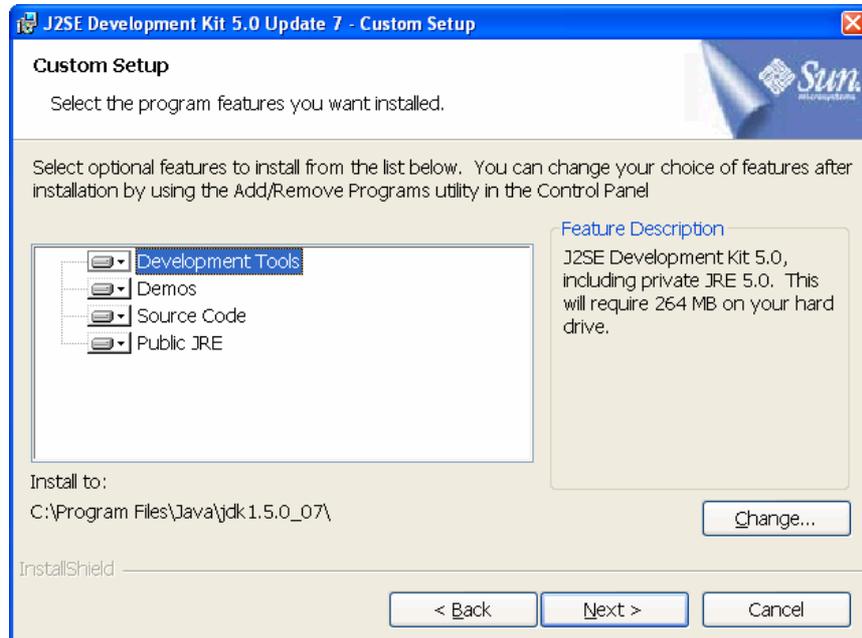
### J2SE Development Kit 5.0 のインストール

以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

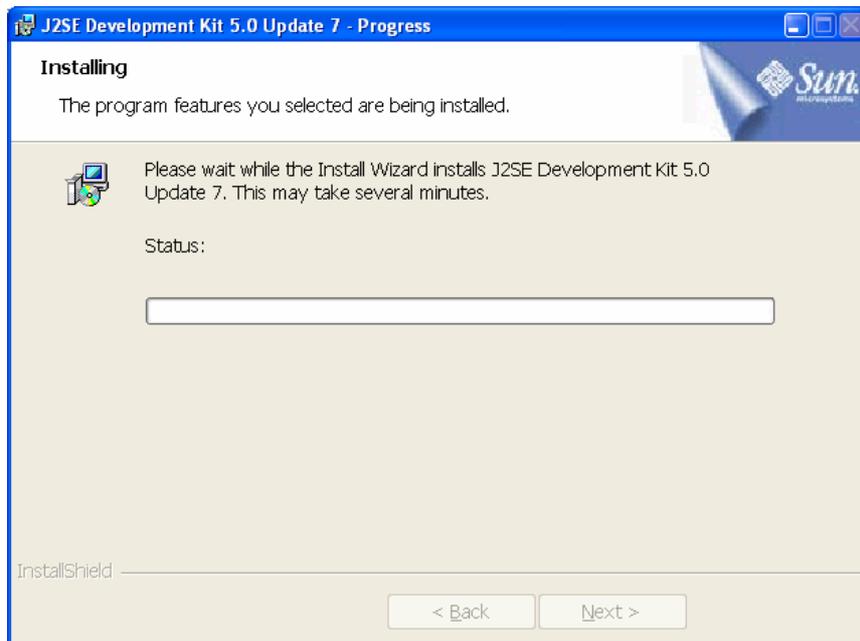
1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。
2. License Agreement の accept を選択して Next ボタンをクリックします。



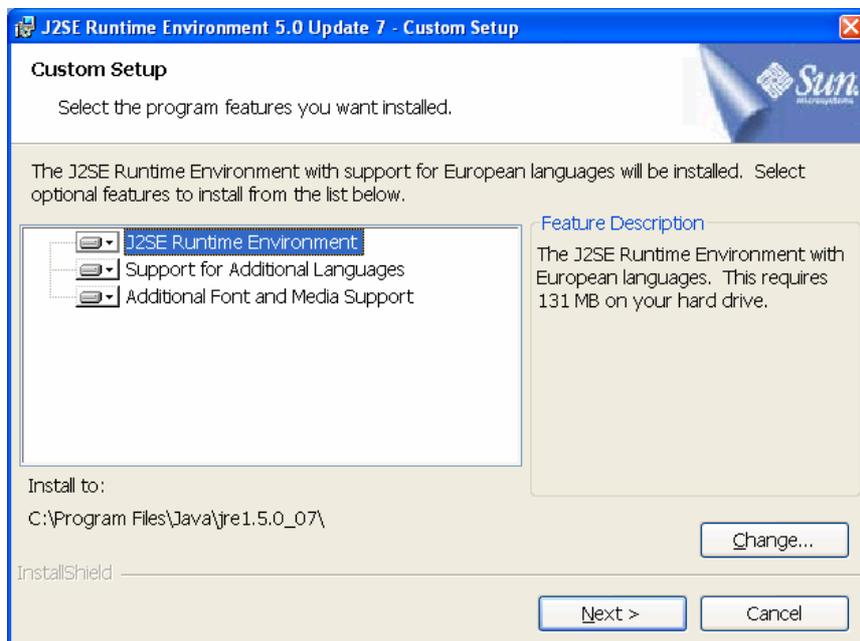
3. 必要なオプションを選択して **Next** ボタンをクリックします。変更する必要がなければデフォルトのまま進めます。



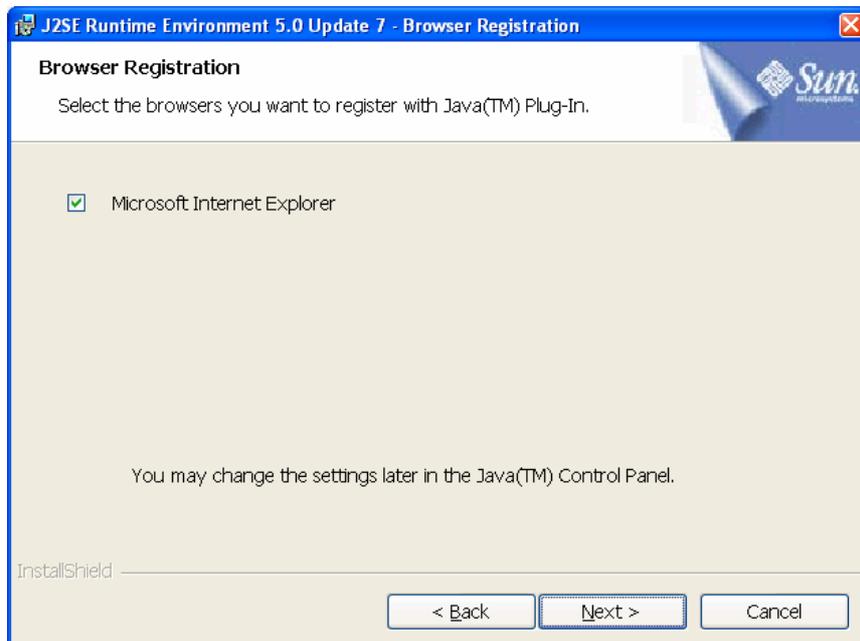
4. しばらく待ちます。



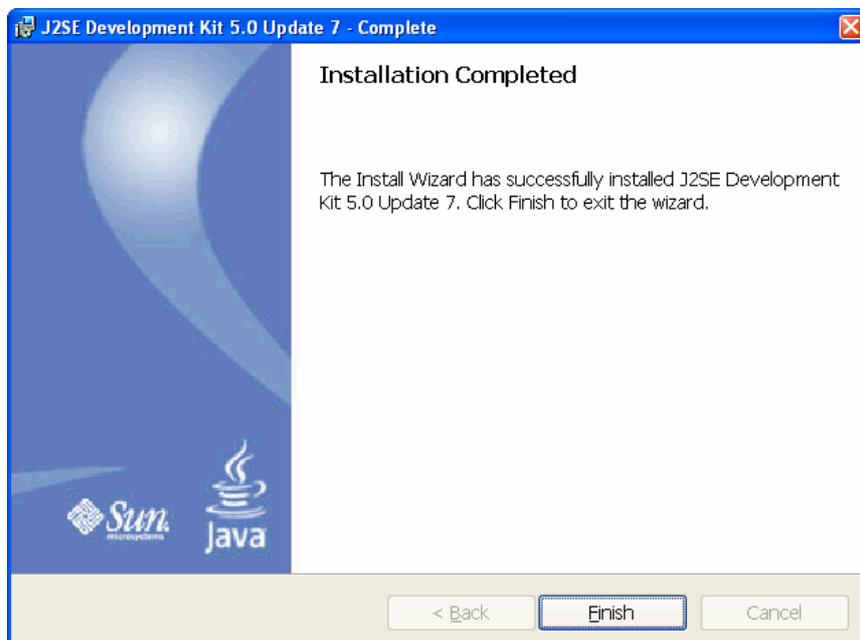
5. オプション機能を選択します。特に必要なければデフォルトのまま Next ボタンをクリックします。



6. Java Plug-In を登録するブラウザを選択して Next ボタンをクリックします。



7. インストール完了です。



## Apache Tomcat のインストール

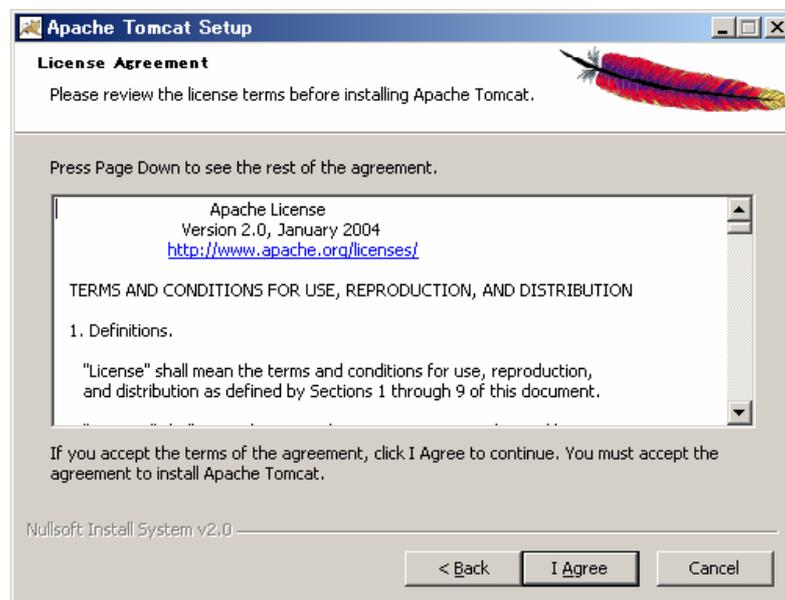
以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。

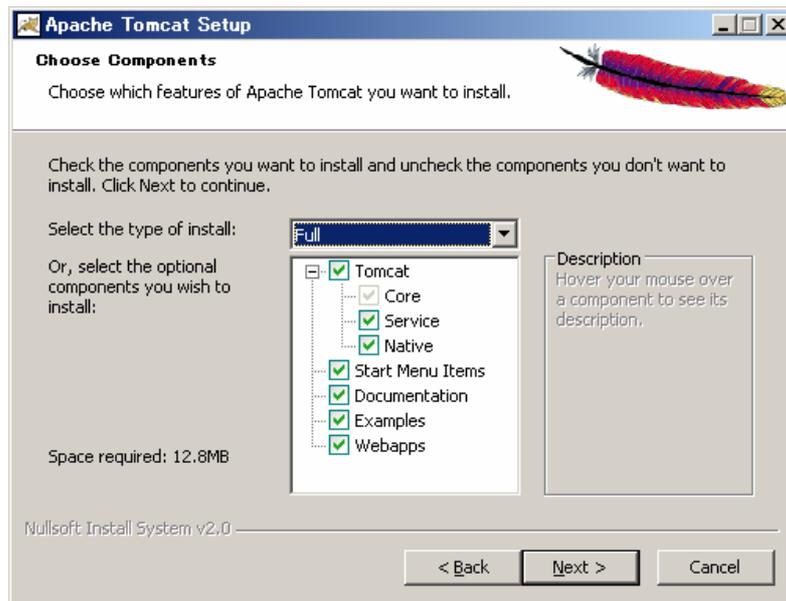
2. インストールが開始します。



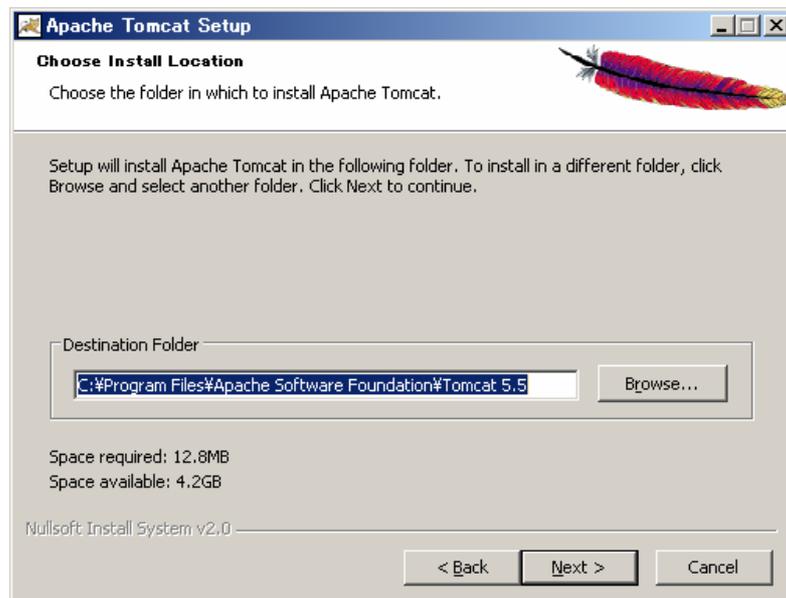
3. License Agreement. に Agree ボタンをクリックします。



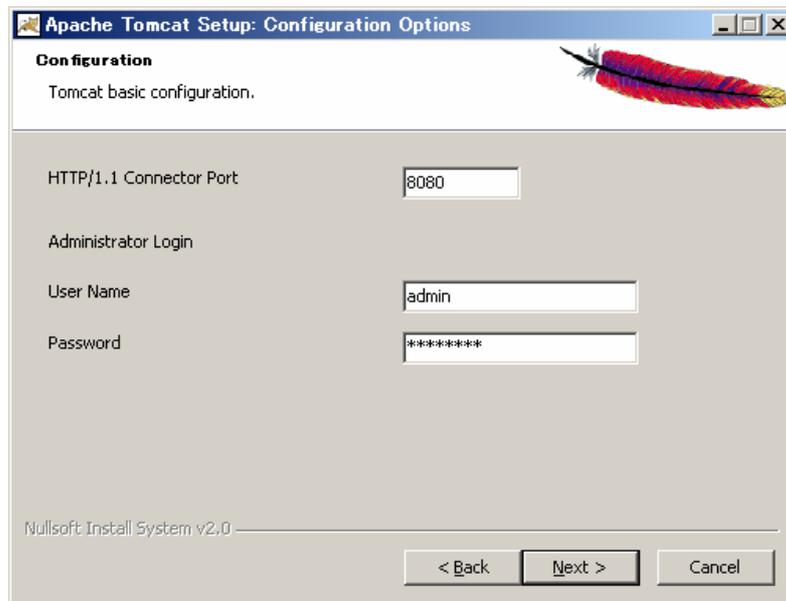
4. インストールしたい機能を選択して Next をクリックします。よくわからない場合は Full を選択してください。



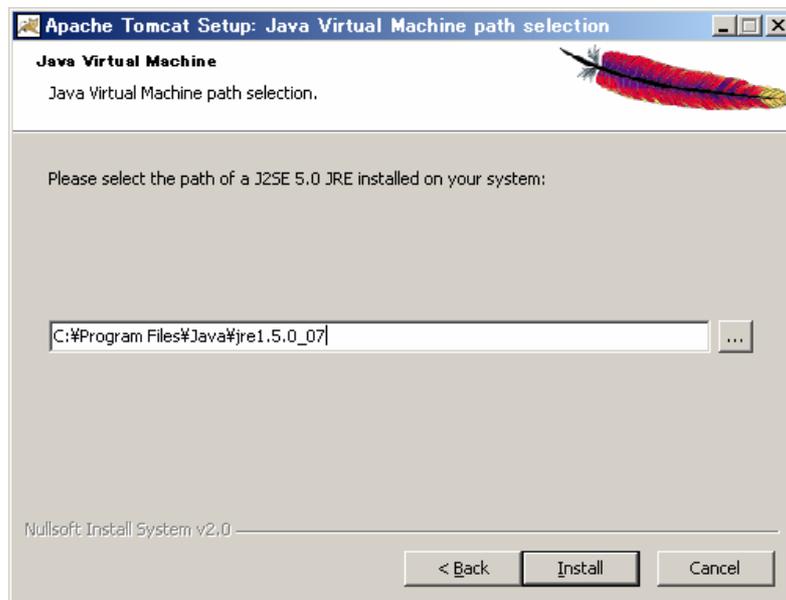
5. インストール先のフォルダを選択して **Next** ボタンをクリックしてください。特に変更する必要がなければデフォルトで進めてください。



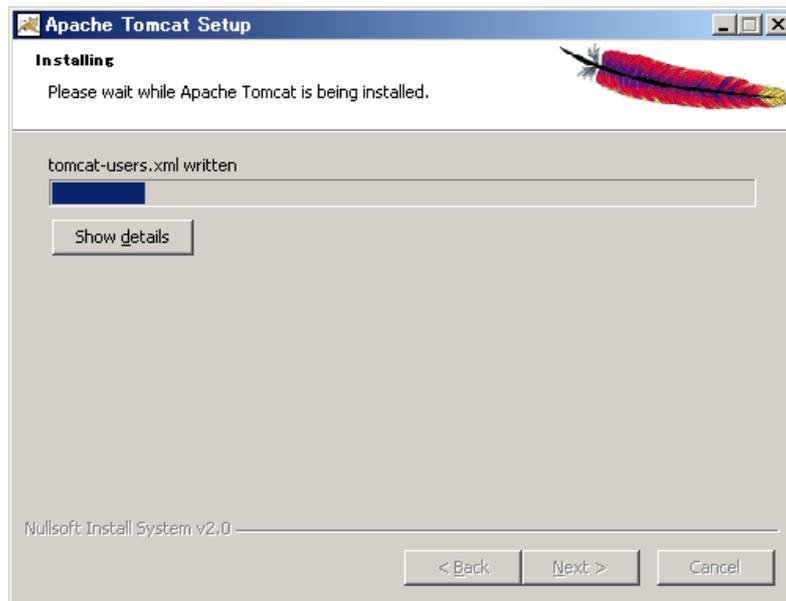
6. 基本構成を行い、**Next** ボタンをクリックしてください。本書では **Port** を 8080、ユーザ名を **admin**、パスワードを **password** として進めます。



7. Java Virtual Machine のパスを設定します。変更する必要がなければデフォルトで進めてください。



8. しばらく待ちます。



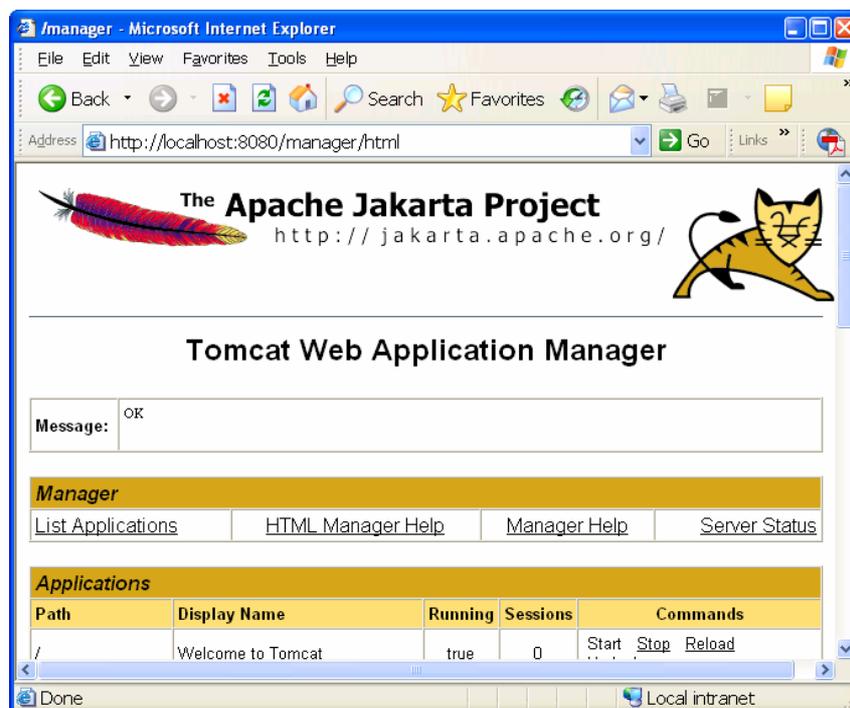
9. インストールが完了しました。



10. Apache Tomcat を開始し、ブラウザで <http://localhost:8080/manager/html> を開きます。インストール中に入力したユーザ名とパスワードを入力してください。(本書では admin と password)



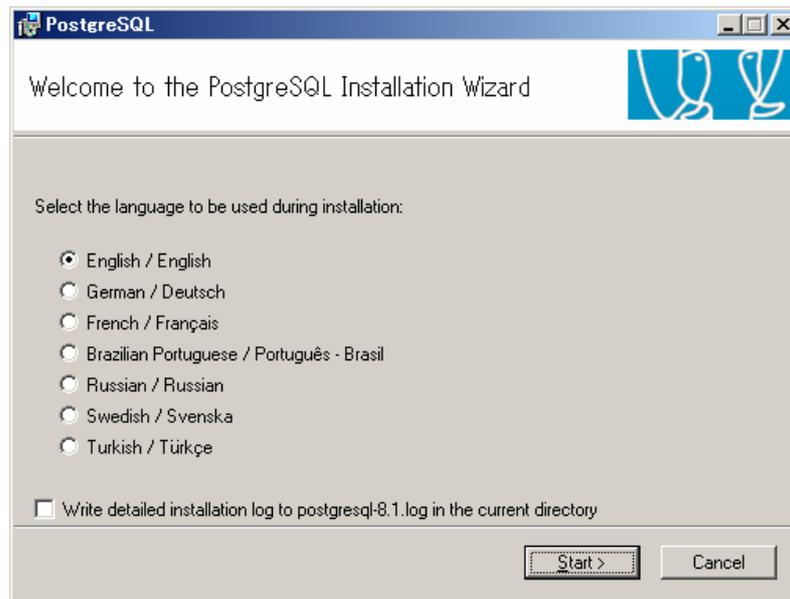
11. 認証終了後、Tomcat の管理ページが表示されます。



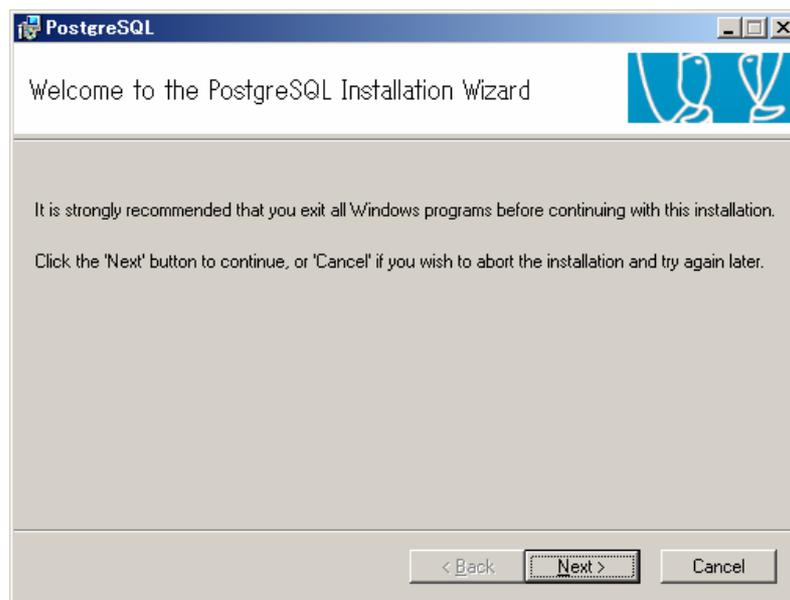
## PostgreSQL のインストール

以下のキャプチャ画面にしたがってインストールを進めてください。

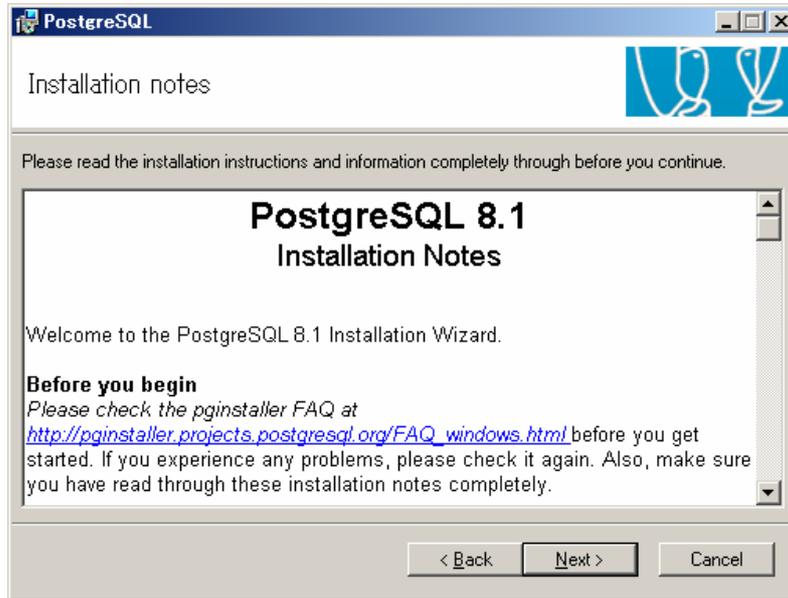
1. インストールファイルをダブルクリックして実行します。(postgresql-8.1.msi).
2. インストール中に使用する言語を選択します。



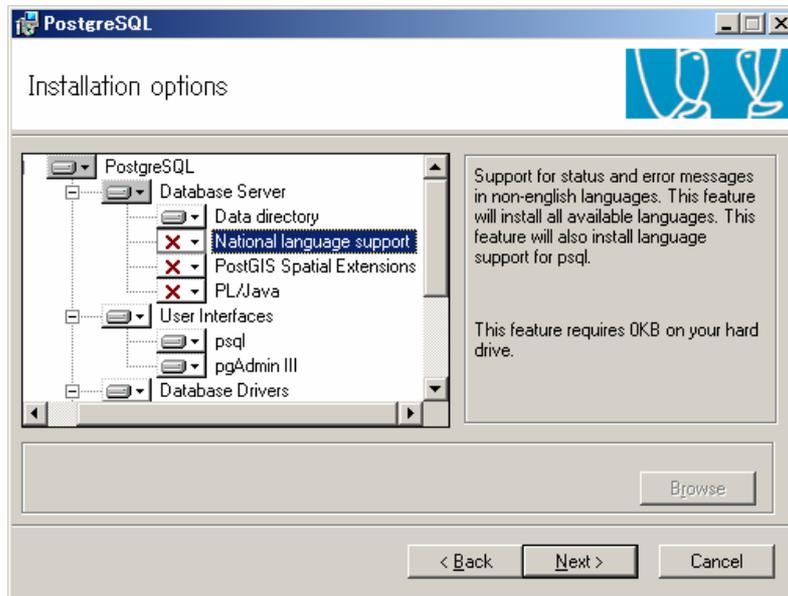
3. インストールが開始します。

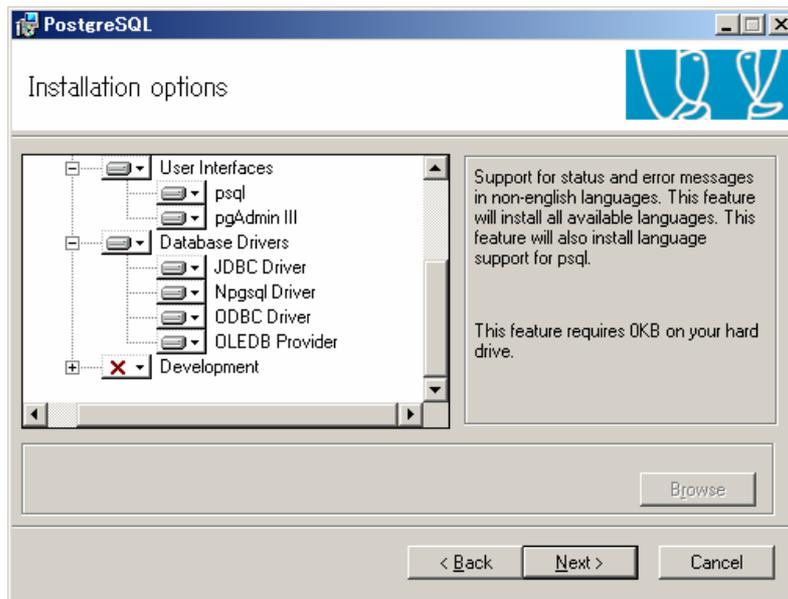


4. Installation notes を読んで、Next ボタンをクリックします。

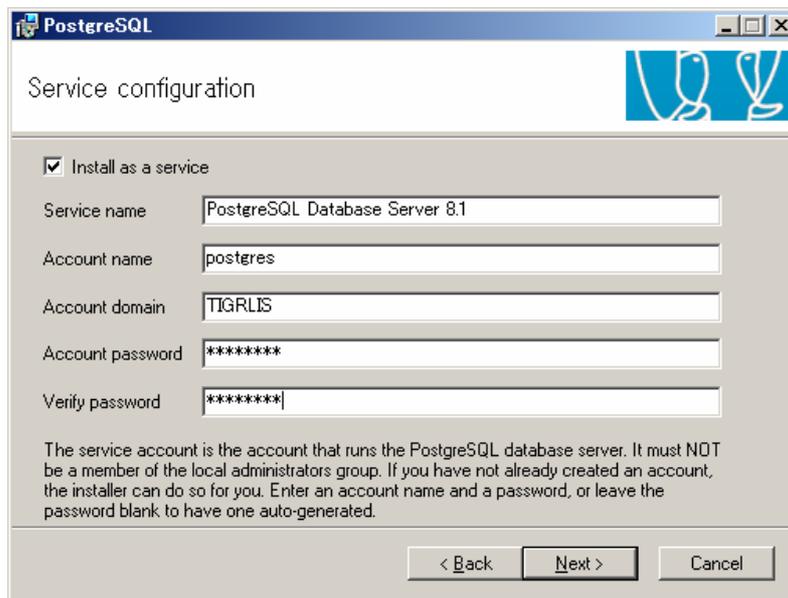


5. インストールのオプションを選択して **Next** をクリックします。必要なければデフォルトのままで **Next** ボタンをクリックします。





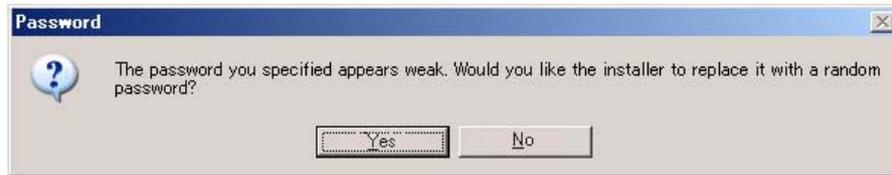
6. サーバの設定を行い、Next ボタンをクリックします。本書では Account Name を postgres、パスワードを password として進めます。



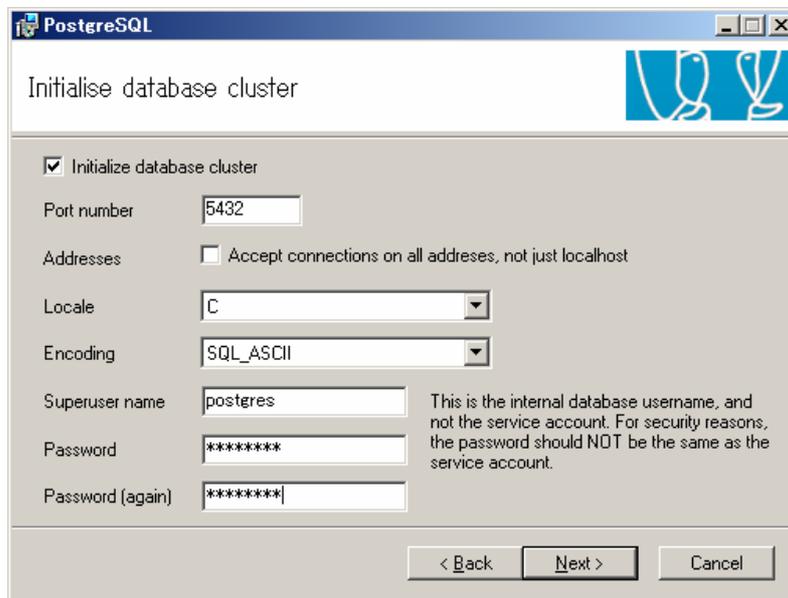
7. Yes をクリックしてアカウントを作成します。



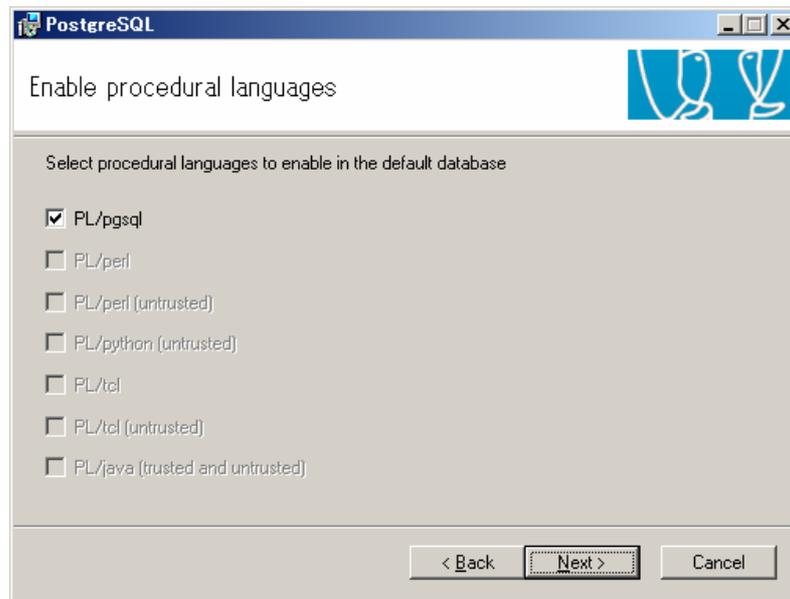
8. No を選択して進めます。（本書では便宜上脆弱なパスワードを利用しています。）



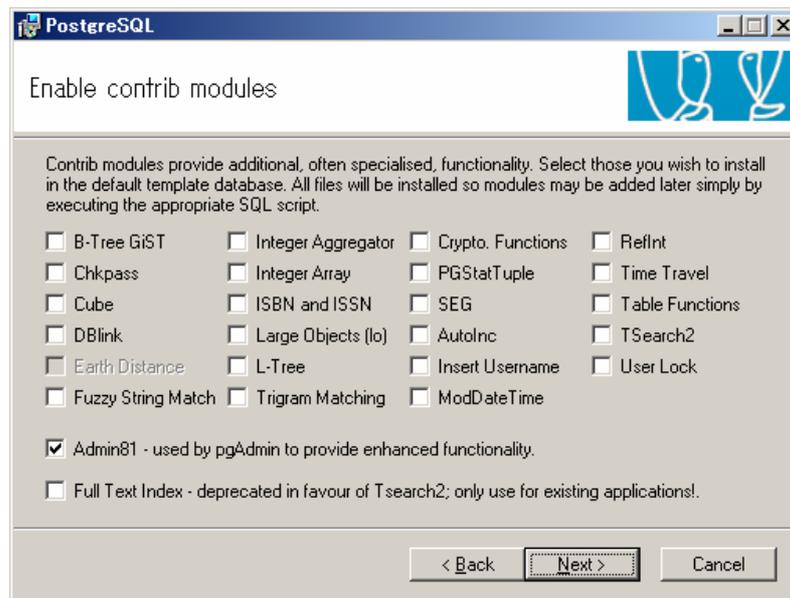
9. データベースの初期設定を入力し、Next ボタンをクリックします。  
user: postgres  
password: password



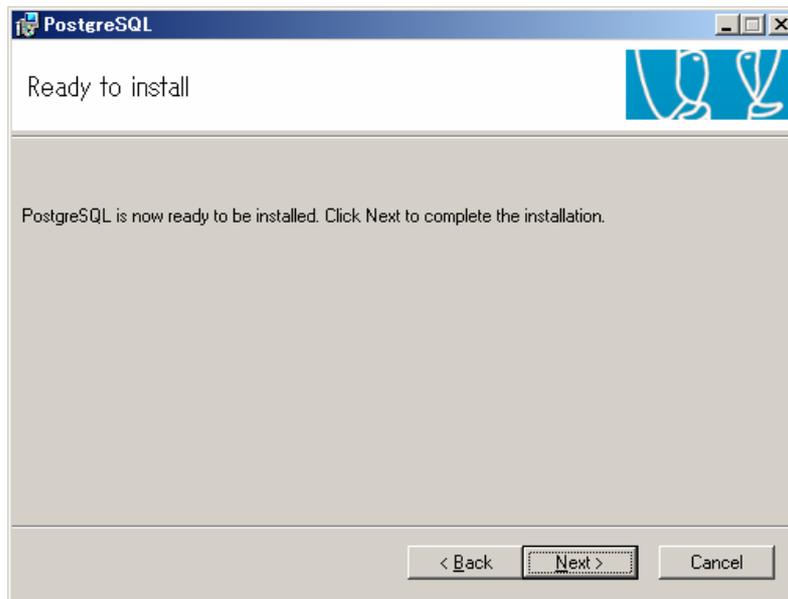
10. Procedural languages を選択します。必要なければデフォルトのまま進めてください。



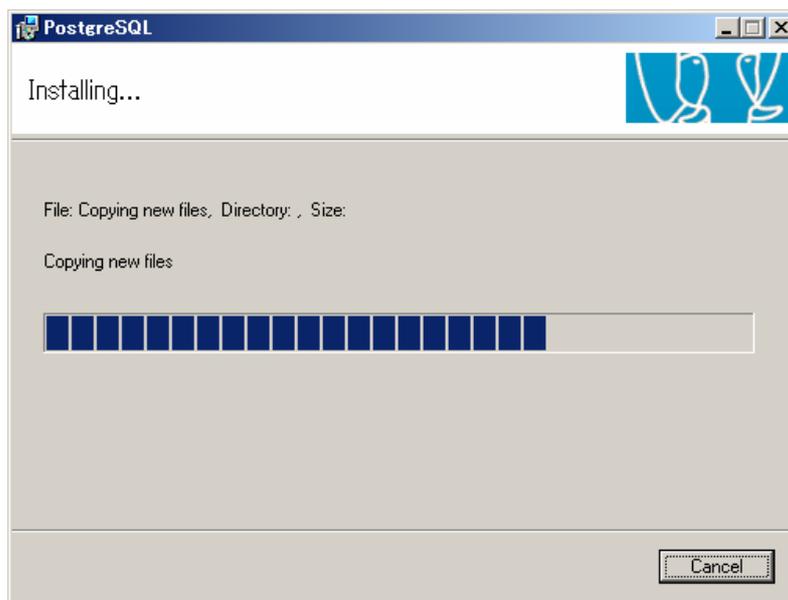
11. Contrib. modules を選択します。必要なければデフォルトのまま進めてください。



12. Next ボタンをクリックしてインストールを進めます。



13. しばらく待ちます。



14. インストールが完了しました。

